第１５回アフターレポート

おしゃべり えほんの会

今回のテーマ

「クリスマス絵本をえらぶ」

於：令和元年 10 月 3 日（木）午前 10 時～11 時半　四日市市立図書館　３階会議室

「絵本の好きな人が集まり、絵本について気軽に話をしよう！」と始まったこの会も 15 回目となりました。今回は、『クリスマス絵本をえらぶ』として、クリスマス絵本の中から、本当に読みたい珠玉の一冊を探してみようということで４つのテーマにわけて展示しました。

【クレメント・ムーア Twas　the　Night　Before　Christmas】

クレメント・ムーアの詩、「クリスマスのまえのばん」を探してみたところ、絵や訳がちがうだけで雰囲気がずいぶん変わることに、みなさん驚かれていました。図書館にあるものだけで９種類もみつけました！

『クリスマスのまえのよる』　ロジャー・デュボアザン/絵（Ｐテ）主婦の友社
『あすはたのしいクリスマス』トミー・デ・パオラ/絵（Ｐハ）ほるぷ出版
『クリスマスイヴのこと』アニタ・ローベル/絵（Ｐロ）セーラー出版
『クリスマスのまえのばん』リスベート・ツヴェルガー/絵（Ｐツ）ＢＬ出版
『クリスマスのまえのばん』ウィリアム・Ｗデンスロウ/絵（Ｐテ）福音館書店
『クリスマスのまえのばん』ターシャ・テューダ/絵（Ｐチ）偕成社
『Twas　the　Night　Before　Christmas』Jessie　Willcox　Smith/絵（Ｗ　Ｓ）新世界研究所
『サンタクロースとあったよる』ホリー・ホビー/絵（Ｐホ）ＢＬ出版
『聖ニコラスがやってくる！』ロバート・イングペン/絵（Ｐイ）西村書店

参加者にお持ち頂いた本**『クリスマスのまえのよる』ニルート・プタピパット/絵**
（※しかけ絵本のため図書館に所蔵がない本です。）

【本来のクリスマス絵本】

クリスマスといえば、イエス・キリストの誕生を描いた絵本も多く出版されています。
外国の絵本が多いのですが、日本の絵本作家も描いています。

『ネコがみた“きせき”』マイケル・フォアマン/作（Ｐフ）評論社
『クリスマスものがたり』フェリクス・ホフマン/作（Ｐホ）福音館書店
『クリスマスのおはなし』谷真介/文　柿本幸造/絵（Ｐカ）女子パウロ会

【日本のクリスマス絵本】

「バスでおでかけ」や「クリスマスのかくれんぼ」「まどから★おくりもの」など、しかけの要素があるものや、サンタやプレゼントがメインの絵本が多いという意見が出ました。

「とのさまサンタ」は、「とのさま」と「クリスマス」という組み合わせが面白い絵本。

日本のものは、宗教色が少なく、子どものころの楽しい思い出、プレゼントやサンタさんを楽しみにする気持ちを、みんなで楽しめる内容が多いのではないでしょうか。

「もういちど、そのことを」は、五味太郎さんの作品ですが、写真を使った絵本です。

『バスでおでかけ』間瀬なおたか/作・絵（Pマ）ひさかたチャイルド
『わたしクリスマスツリー』佐野洋子/作・絵（Pサ）講談社
『とのさまサンタ』本田カヨコ/文　長野ヒデ子／絵（Pナ）佑学社
『もういちどそのことを、』五味太郎/作・構成　寺崎誠三/写真（Pテ）クレヨンハウス
『クリスマスのかくれんぼ』いしかわこうじ/作・絵（Pイ赤ちゃん）ポプラ社
『サンタクロースのふくろのなか』安野光雅/作・絵（Pア）童話屋
『あのね、サンタの国ではね・・・』嘉納純子/文　黒井健/絵（Pク）偕成社

【外国のクリスマス絵本】

外国の絵本は、信仰に基づいたメッセージを含んでいるものが多く、また、あまり派手ではないので、これまで手に取らなかった方も多いようでした。「賢者のおくりもの」や「世界で一番のおくりもの」、「聖なる夜に」など、じっくり読むことで、絵本にこめたクリスマスの意味をあらためて感じました。

「ポインセチアはまほうの花」、「クリスマスまであと九日」など、メキシコという暑い国のクリスマスの本もあります。

こうやって、並べてみると、有名な絵本作家は、一冊はクリスマスがテーマの絵本を描いているのではとも思われました。

『賢者のおくりもの』オー・ヘンリー/文　リスベート・ツヴェルガー/絵（Pツ）冨山房
『聖なる夜に』ピーター・コリントン/作（Pコ）BL出版
『天使のクリスマス』ピーター・コリントン/作（Pコ）ほるぷ出版
『いじわるシャルル』ステファニー・ブレイク/作・絵（Pフ）PHP研究所
『クリスマスまであと九日』マリー・ホール・エッツ/作・画,アウロラ・ラバスティダ/作（Pエ）冨山房
『ポインセチアはまほうの花』ｼﾞｮｱﾝﾇ・ｵｯﾍﾟﾝﾊｲﾑ/文　ﾌｧﾋﾞｱﾝ･ﾈｸﾞﾘﾝ/絵（Pネ）光村教育図書
『世界で一番の贈りもの』マイケル・モーパーゴ/作　マイケル・フォアマン/（933モ）評論社

【まとめ】

クリスマス絵本は、読んで聞かせるために、無意識にわかりやすいものを選んでいたが今回、じっくり読む作品の素晴らしさに気付いた、という意見がたくさん出ました。

クリスマス絵本との向き合い方を、それぞれが考えるよい機会になりました。

次回は「新刊絵本を読む」を２月に開催予定です。2019年に図書館に入った絵本が並びます。

ぜひご参加ください。